

大宮 まぐろ 新聞

Vol.026

2026年3月6日発行



図書館のご近所さん 株式会社クレス



パピアブラッツ 企画・デザイン
中川美佐紀さん

今回のご近所さんは、大人気の文具ブランド「パピアブラッツ」を擁する「株式会社クレス」。
埼玉「ご当地インク」の「彩玉ink」について、中川美佐紀（なががわみさき）さんにお話を伺いました。

「さっそくですが、「彩玉ink」はどういうきっかけで生まれたんですか？」

コロナ禍で埼玉県外への移動が出来なくなって、新しい商品はどうしよう、どんなものがいいかな、となった時に県内を巡って見たら、埼玉県ってこんなに面白かったんだ！って改めて思ったんです。
その頃インクを扱う各メーカーが観光地をイメージしたご当地インクを販売されていたんですけど、埼玉のインクは無くても蚊帳の外みたいに感じていました。「埼玉」とか自虐ムードもあったので、逆に、こんなにもいいものが埼玉にあるよってPRできるインクを作ったら面白いんじゃないかっていうのがきっかけでした。

「そうだったんですね。ちなみに最初に作られたインクはどれですか？」

狭山茶、草加せんべい、長瀨（ながとろ）、川越、コバトンの5色からスタートしました。どれも埼玉県を代表する名産品や場所ですね。全て実際に現地取材してからイメージを膨らませてます。狭山茶なら試飲したり、川越なら小江戸の街を歩いたり。その時に感じたものをなるべく「シズル」として落とすようにしています。柔らかいお茶の色で、おいしいなあとか、爽やかなんだとか、味や印象を色に落とし込めるよ、こだわりは結構つめてますね。

【シズル (sizzle)】とは？
広告用語のひとつ。商品が持つ香りや味わいなどの五感のイメージを、視覚・聴覚的に表して受け手に伝達させること。
または表現されたもの。



さいたま市を代表する「大宮盆栽」をイメージしたインク。盆栽の歴史を感じられるような深い緑が特徴的です。

「埼玉県と言えば！」という名所やアイテムをイメージしたインクがずらり。「ふっかちゃん」や「シラコバト」など、写真には載っていないインクもたくさんあります。



「彩玉inkの箱のイラストはどなたが描かれていますか？」
私がデザインしてます。他のご当地インクは割ときれいで、クールなデザインが多いんですけど、でも埼玉にクールなイメージないよね(笑)。じゃあどういイメージなんだろうって考えた時に、もうちょっと人懐こい感じがあったので、角のとれた柔らかいイラストにしました。
マップ風にしたパンフレット(左写真)や、インクのパッケージの中にも小さなリーフレットが入っていて、読み方が難しい地名もわかりやすいようにローマ字で表記してます。それから、印刷する時の発色も、できる限りインクに近い色になるように気をつけています。

「インクができるまでの流れを教えてください。」
まず私が自分の中のイメージを言語化して落とし込んで、絵の具とかでサンプルを作ってみるんですよ。それを各メーカーの調色師に原稿として送るんですけど、そこでも色の番号や自分のイメージなど、なるべく詳細にまとめたものを資料として送ります。
その後、調色師が作ってくれたものを私がチェックして、もう少し薄くしたいとか、赤みを足したいとか、やりとりを重ねて出来上がります。それがスツといくこともあれば、何度もやり直すこともあって、感覚的に難しいですね。大変ですけど、そこが面白いところでもあります。

「イメージを伝えるのが難しいそうです。」
だからこそ体験することが大切だと思っています。そういう奥行きが説得感としてお客さんに伝わるので。ただインターネットの画像を見るだけじゃなくて、ちゃんと現地へ行って、地元の方々と話をして、そこでずっと研究されてる博物館とかの歴史や背景を学んで、これだ、という色をつくる。そうすると調色師にも話が通じやすいんですよ。
調色師は感覚的な方が多いので、私がこういうイメージで、って言うても伝わるんですよ。固い感じで...とか。そのために現地へ足を運んでいるのもありますね。資料館や博物館で調査するのも大好きです！

「(色見本を見せていただきながら) ラメが入ったインクもあるんですか？」

『秩父三大水柱(ひょうちゅう)』インクですね。ラメありとラメなしがあります。このインクを作る時に、それまでインクの調整をお願いしていたメーカーさんはラメを扱ってなくて、でもどうしてもラメを入れなかったので、他のメーカーさんと一緒に作り直しました。
構造上、ラメが入ったインクは万年筆では使えないので、インクに浸して使うガラスペンも『秩父三大水柱』インクに合わせて作ろうと考えました。それで埼玉県で活躍しているガラス作家さんにご連絡したら、面白いと興味を持っていただけ。作家さんには、氷の美しさを表現するために「水柱を自然の中からそのまま抜き取ったイメージ」をお願いしました。そして「書くという機能性もしっかりと兼ね備えていること」にもこだわったガラスペンを作っていました。



『秩父三大水柱』インクと同じ水柱(つら)をモチーフにしたガラスペン。

「そういうえば、彩玉inkがきっかけで、秩父ってウイスキーが盛んなんだって知りました。」
そうですね。そんな風に埼玉の魅力を伝えられたらいいなと思ってます。だから、まだ行ってない場所があるな、まだ掘れるなって。あと、こういう商品をきっかけに、普段会えない人や企業とつながりができるのも面白いんです。そのつながりを、商品を通してお客さまにも知っていただくこともできますし、すこしい企画だと思ってますね。

「一人とのつながりが生まれますね。」
インクの販売会などでも、埼玉から来られたお客さんに喜んでもらえる私たちも嬉しいんです。パンフレットを見て、「この場所の色はありますか？」とか「自分の出身地のインクを出してほしい！」なんて言われたりもしますね。
図書館の皆さんにも、こういうインクがあったらいいなあっていうのを教えていただければ実現するかもしれないよ！
「どこがいいかなあ...」(笑) 次はどんな色が出るのか楽しみです！
中川さん、本日はお話を聞かせてくださってありがとうございました。

中川さんのおすすめ本



『春にして君を離れ』
アガサ・クリスティ／著
中村 妙子／訳
2004年 早川書房



『プロジェクトヘイルメアリー』
リー(上)／著
アンディ・ウィアー／著
小野田 和子／訳
2021年 早川書房



株式会社クレス
〒337-0091
埼玉県さいたま市見沼区東大宮5-35-10
TEL : 048-686-7541
FAX : 048-684-6411



『一路』

十九歳の武士・小野寺一路（おののらいちろう）は、屋敷の失火で不慮の死を遂げた父の役目を継ぎ、江戸へ向かう参勤交代の総責任者を命じられます。失敗すれば父の不始末の責めを負い、切腹・家名断絶は免れません。職務の詳細を知る者はおらず、頼りは二百年以上前に書かれた古文書のみ……絶体絶命の一路ですが、古文書の教えを愚直に再現し「古式ゆかしい行列」ができあがりませぬ。

しかし、行列がたどる中山道は難所だらけ。格上の行列との鉢合わせ、殿さまの急病などトラブル続発の上、殿さまの命をねらう陰謀まで見えてきます。困難に全力で向き合う一路はその都度さまざまに助けられ、やがて自分一人ではなく、彼のまわりにいる名もなき「あまたの星ぼし」に支えられていることに気づき始めるのです。

さて、大宮の登場は、物語も大詰めの大事な場面です。江戸に入る前日、一行は武蔵国一宮・氷川神社を参拝します。その時でした。僅かな供を連れて二の鳥居周辺を進む殿さまが、不意に走り出します。見れば参道の脇に、いくつもの刺客の影が！ 一路たちも必死に走りつつ刀を抜き……このあたりはぜひ、実際の風景を想像しながらお読みください。そして物語は雪景色の荒川・戸田の渡での対決シーンへと続いてゆきます。

うつけと見せて聡明な殿さまをはじめ、おかしくも愛すべきキャラクター（馬もしゃべります）に囲まれ、悩みながら成長する一路を見てみると、自分が社会に出た頃のことを思い出す読者も多いことでしょう。



紹介した本
『一路（上・下）』
浅田次郎／著
2013年 中央公論社

むらさきに芽ぐむ木立は何の木か

われはまだ待つ冬のこのひら

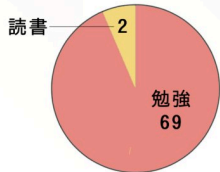
『雲の地図』より

妹・佐代子（さよこ）を亡くした後には詠まれた歌です。春が来て、木々には新芽が出始めている。だが大切な妹を失った傷は深く、まだ自分の手のひらには冬が残っているように感じる。そんな民子の心境を表しています。

中高生アンケート(利用編)

大宮図書館を利用している中高生71名にアンケート調査を行いました。
調査期間：2026年1月30日～2月23日（一部複数回答）

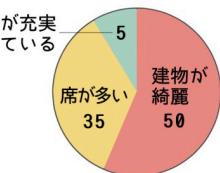
Q1.大宮図書館に来た目的を教えてください。(回答数：71)



やはり「勉強のため」が圧倒的でした。朝早くから夜遅くまで、たくさんの方の学生さんが教科書や参考書を開いて頑張っている姿を見かけます。図書館の棚に並んだ資料の中にも、勉強や日々の生活に役立つ本が隠れていますよ。興味があればぜひ、探してみてくださいね。

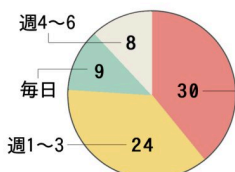


Q2.大宮図書館の好きなところを教えてください。(回答数：90)



その他、こんなご意見もありました。
・内装がお洒落／設備が充実している／席(机)が広い
・開館時間が長い／年末年始も開館している／休館日が少ない
・時間制限のない席がある
・静かで集中できる
・氷川参道側にある窓際閲覧席からの眺めが綺麗
・氷川参道で気分転換ができる
・駅から近い／職員への対応が丁寧
・周りに学生や勉強している人が多く、自分自身のモチベも上がる

Q3.大宮図書館を、週に何回くらい利用しますか？(回答数：71)



テスト期間や長期休暇の時だけ

週末やテスト期間だけの利用が多いと思います。週4～毎日来館されるいわゆる「常連」な学生さんもいらっしゃいますね。いつ来ても居心地良く使っていたけるよう、これからも頑張ります！



ご協力いただいた皆さん、ありがとうございます！

わたしのきなえほん

みんな本当はこうしたいよね。初めて読んだ時、私も、私の子供たちもそう思いました。

お母さんがおでかけをするので、夜遅くまで留守番を頼まれたデージーは、一緒に過ごしてくれるベビーシッターのおねえさんにほんのちょっとそをつきました。そしてこっそり指でおまじないをしたら、楽しい留守番のはじまりです。

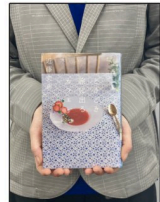
デージーはもう好き放題。アイスクリームにレモネードにフライドポテトって普段は出してもらえない夢のおやつですよ。お風呂もバスしてソファでジャンプしても怒られない。そのあとは12時までおねえさんとビデオ鑑賞。最高な留守番ですよ！ 最後はおねえさんも「デージーはとていい子でした」ってほんのちょっとそをつきました。

この本は、子どもにも大人にもおすすめ。読んだ後は思わずぐりと笑っちゃいました。家の中で騒いじゃダメ。ソファでジャンプなんてとんでもない。おやつは食べてもいいけど袋の半分までね。夜ご飯は野菜もちゃんと食べなさい。さあ、もう時間だからお風呂に入って。宿題終わった？ 歯みがきした？ じゃあ早く寝なさい、なんて毎日毎日言われると本当に窮屈。たまにはデージーみたいに、自由に楽しく過ごすのもありですよ。……でもそれは時々、そして休日の前とかにしてくださいね。



『ぼんとにぼんと』
ケス・グレイ／文
ニック・シャラット／絵
よしがみきょうた／訳
2006年 小峰書店

紹介した本
『ときどき旅に出るカフェ』
近藤史恵／著
2017年 双葉社
紹介者 みげまんじゅう



Xはイベントやスタディコーナーの待ち人数など大宮図書館の情報を日々お伝えしています。ぜひ、フォローしてみてくださいね！

今回ご紹介するのは近藤史恵著『ときどき旅に出るカフェ』です。
テーマが「紅茶」ということで、紅茶が出てきそうな、または紅茶に合いそうなおしゃれな本を探していたところ目に留まった、タイトルと表紙からして美味しい食べ物がたくさん出てきそうでワクワクする本です。
この作品は、平凡な毎日を暮らす主人公のOL、瑛子（えいこ）が、元同僚である円（まどか）の営む「カフェ・ルーズ」に偶然足を運んだことから始まります。瑛子の周りで起こる小さな事件を「カフェ・ルーズ」のスイーツをヒントに解決していく、ときどきほろ苦く、それでいて心が癒されるストーリーが魅力です。各話にカフェのオーナーである円が世界各国を旅して見つけた、日本ではなじみのないメニューが登場し、優雅に紅茶やコーヒーを飲みながら読み進めたいような作品ですが、その中でも第六話の「鴛鴦茶（ユンヨンチャー）」のように、「紅茶がひとつの大きな意味をもつお話になっています。」
ある日の夜、いつものようにカフェ・ルーズを訪れた瑛子は、同じマンションに住む中学生の女の子、結希（ゆうき）が一人で佇んでいるところを目撃します。円によると結希は、夜になると度々カフェにやって来るそう。そこには彼女の家庭の事情が絡んでいるようで……。
全話を通じて人間関係が複雑に絡み合いつつも、読後は温かな気分になれる作品です。ネタバレになってしまふので詳しくは書けないのですが、鴛鴦茶は自宅にあるもので手軽に作れるような飲み物なので、是非手作りの鴛鴦茶や物語に出て来る様々なスイーツ片手に、お話の余韻に浸ってみてはいかがでしょうか。
物語の中のカフェ・ルーズは小さな店でありながらも窓からの日差しが温かく、居心地の良いカフェとして瑛子の行きつけになっています。大宮図書館もそうですが、大きな窓は開放感があり気持ちがいいものですね。ということで、次回のテーマは「窓」でお願いします。

